

令和元年度 歯学部附属歯科技工専門学校
学校関係者評価 報告書

1 目的

歯学部附属歯科技工専門学校（以下「本校という」）で実施した自己点検・評価結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について、学校外の関係者による評価を行い、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、専門学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ること等を目的として行う。

2 基本方針

① 実施方法

「専修学校における学校評価ガイドライン」（文部科学省：平成 25 年 3 月策定）を参照の上、歯学部附属歯科技工専門学校学校関係者評価協議会（以下「協議会」という）を設置して複数名の学外評価者による本校の学校関係者評価を行う。

- (1) 評価者は、平成 30 年度に実施した自己点検・評価項目の中から、以下の「評価項目」に掲げる事項について評価する。
- (2) 平成 30 年度自己点検・評価項目以外に、重点目標（本校内の全教職員が意識して取り組むことができる具体的目標）を本校において設定し、学校関係者評価実施前に、自己点検・評価を行う（今年度の重点目標は「進路指導」における事項とする）。

<評価項目>

基準Ⅰ 教育課程・学習成果
① 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。
② 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
基準Ⅱ 学生の受け入れ
① 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。
② 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
基準Ⅲ 教員・教員組織
① ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。
② 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
○進路指導における重点目標

3 構成員

① 卒業生

昭和 55 年歯学部附属歯科技工専門学校卒業生 藤 森 伸
(株式会社 UDB 代表取締役)

② 地域住民

株式会社 日米商会 高 野 久 子

③ 学校の専門分野における関係団体・関係業界

(就職先企業, 施設等の実習先, 分野別の業界団体等)

東京都歯科技工士会副会長 (2019 年度) 小笠原 明

④ 歯学部附属歯科技工専門学校教職員

校 長 松 村 英 雄

教 務 主 任 高 津 匡 樹

教 務 副 主 任 今 井 秀 行

専 任 教 員 木 内 浩 子

専 任 教 員 市 川 裕 美

教 務 課 主 任 岡 村 佐 恵 美

4 協議会開催日

第 1 回 令和元年 10 月 30 日 (水)

第 2 回 令和元年 11 月 18 日 (月)

第 3 回 令和 2 年 1 月 23 日 (木)

5 評価方法

① 専門学校校長が、「学校関係者評価票」(別紙)の各評価項目について、評価結果及び取組状況等を説明する。

② 学校関係者評価委員が、上記①を基に、次のとおり評価する。

(1) 各評価項目の「取組状況・評価に対する意見等」・「優れている点, 継続してほしい点」・「問題点・要望等」・「その他意見等」を記述する。

(2) 取組評価については、次の 4 段階で評価する。

A : 十分できている, B : おおむねできている, C : 一部改善が必要, D : できていない

③ 学校関係者評価委員が、「学校関係者評価票」の評価結果を基に、総評として評価結果を報告する。

6 評価結果（総評）

自己点検・評価結果については、別紙学校関係者評価票のとおりであるが、以下の各基準における改善方策等を挙げる。

「基準Ⅰ 教育課程・学習成果」においては、まず、実習講義において、学校で行う実習がどのように歯科技工に役立つのかを講義することで、学生の理解を一層深めさせていく必要がある。

また、国家試験対策としてマークシートを用いた模擬試験を10回実施し、教科担当責任者が解説を行っている。正答率や選択肢ごとの回答率を集計し、解説時に正答率が悪い問題を中心にフィードバックを行うなど、より細かい指導を行う。

今後も学生の修学状況に合わせた指導方法を継続的に検証し、指導の強化をはかる。

「基準Ⅱ 学生の受け入れ」については、ホームページや学校案内の内容について、今後も定期的に見直しを図り、学校見学者に対して、新しい歯学部本館第5実習室を可及的に利用し紹介する。

「基準Ⅲ 教員・教員組織」については、全国歯科技工士教育協議会主催の専任教員講習会に計画的に出席することで、カリキュラムプランニング、コミュニケーション力の育成等の資質向上を図っており評価できる。

最後に「進路指導における重点目標」では、卒業生や日本歯科技工所協会加盟の企業の方から自身の経験、就業の心構えや求められる人材について、講義をしており、歯科技工業界の現状を把握するとともに就職活動への意識や意欲を高めるため、引き続き実施する。

また、学生の視野を広げるよう、様々な企業や歯科技工所の現場を見学する機会を増やして、個々に適した職場を探すサポートを行うことも併せて検討する。

CADの基礎を学ぶためモデリングソフトを用い、コンピューター上で設計を行うことや設置している旧型のCAD/CAMシステムを使用し授業を行い、学校の現状に見合った最大限の対応を行う。

以 上